

## 和佐谷町会との市長と能ん美りカフェトーク

日 時 令和6年12月7日（土）9:50～10:30

会 場 和佐谷町公民館

参加人数 約20人

### ○市政報告

（はじめに）

・私にとっても大変思い出深い公民館が、新しく生まれ変わったことを大変うれしく思っており、今からここでどのようなことが起こるのだろうと楽しみでもある。今日は、この公民館ができたことを機に、この公民館に関する市の取組の紹介をさせていただきたい。

（令和6年能登半島地震）

・まず初めに、少しだけ令和6年能登半島地震について触れさせていただく。市内の復旧・復興とともに、能登への支援に取り組んできた。能登で被災した人たちの受け入れを行っており、一番多い時で350名くらいの方がいらっしゃった。現在、能美市が設営した避難所に避難されている方はいらっしゃらないが、市営住宅や借り上げた市内のアパートに住まわれたり、友人や知人の家に身を寄せられていたりする方はまだ100名程いらっしゃる。その方たちに能美市で安全、安心で快適に暮らしてもらえるようサポートしていきたいと考えている。市内での一番大きな被害は、のり面崩落により、緑が丘の市道が約20メートルにわたって陥没したことである。このほか、神社の燈籠や石碑の倒壊、福岡小学校プールの液状化等があった。能登では加えて大雨も降って被害が出ており、能登の復旧・復興が果たされるまで、能美市としてもしっかりと支援をしていきたいと考えている。

（インクルーシブシティ構想）

・事業・施策の方針に7本柱があり、毎年5つの方針・目的を設定し、そのすべてが移住定住の促進につながるように取り組んでいる。その一つに、インクルーシブシティ構想が

ある。インクルーシブというのは、誰一人取り残さない、仲間外れにしないという意味であり、能美市に住んでいらっしゃる健康な人も、障がいをお持ちの人も、高齢者も、子どもも、外国人も、全ての人が安全・安心、快適に暮らせるように、デジタルの力を使って地域共生社会の実現に取り組んでいる。

- ・町会長や民生委員、保護司等にタブレットを持ってもらい、ペーパーレス・相互連絡に役立ててもらっている。

- ・保育園では、今まで登園を先生がチェックしていたが、インターホンのような機械を押すと、誰が登園したかわかるようになっており、お便り帳もなくして、アプリで連絡をしている。小中学校もアプリを導入しており、以前はインフルエンザ流行期に欠席の電話が集中してつながらなかったことがあるが、今はアプリで簡単に欠席連絡ができるようになっている。

- ・タクシー運転手が大変不足しており、二種免許を持っていない人たちに移動に困っている人を助けてもらおうと、ライドシェア導入に向けて準備を進めている。ただ、いろいろな課題があるので、まずは国造地区周辺エリアから始めて、検証をしながら、こちらの和佐谷町にも広げていきたいと考えている。

- ・市内の82公民館、全てにW i - F iを整備し、デジタル公民館として様々な取組を行っている。例えば、高齢者はいきいきサロンやスマホ教室に参加するために、子育て世代はeスポーツを体験するために、子どもたちにはChrome bookを持って、勉強するために公民館に来てもらう。そして、子どもたちが、勉強でわからないことを高齢者や子育て世代の方に教えてもらったり、高齢者がスマホの使い方を子どもに聞いたりというような交流を公民館でできないかと考えている。

- ・公民館は避難所になることも多いので、マイナンバーカードを利用した避難所チェックインの導入や、監視カメラを設置し、公民館付近の川がどれだけ増水しているかや、子どもたちが通ったかどうか等をチェックできるようにする。

- ・オンライン診療にも取り組んでいる。高血圧や糖尿病等、慢性疾患をお持ちの方は月に1回、薬をもらうため、通院して診療を受ける必要があるが、その負担軽減を図るため、公民館でオンラインによる診療が受けられるようにする。栗生町で試験的に始めており、様々な課題を解消しながら、順次広げていこうと考えている。

- ・公民館でスマート物流サービスも行う予定であり、買い物に行かなくても、スマートフォンやパソコンで注文すれば、商品を公民館に届けてもらうことができるようになる。も

つと生活を便利にしていこうということがデジタル公民館の発想である。

・東日本大震災のときに多くのカルテが流され、診療情報がわからなかったこともあり、全国的に電子カルテ化が広まった。石川県でも電子カルテが始まっていて、市内でも紙ベースをやめて、コンピュータでカルテを作っている病院がある。今回の能登半島地震では、電子カルテに登録にしてあった能登の一部の方は、避難先の能美市でも薬をもらったり、透析を受けたりすることができた。能美市全体で同じ電子カルテを広げることによって、検査結果を他の病院でも確認でき、医療費が安くなり、診察時間が短くなるという利点があるほか、ケアマネージャーや薬剤師、救急隊等が情報を共有できるようになるメリットもある。また、万が一、能美市に大きな災害が起こり、市民が他自治体に避難しても、ここでスムーズに薬がもらえるようになるので、少しずつ今準備を進めている状況である。

・エアコンや空気清浄機等、IoT家電についているセンサーで、家に住んでいる人の健康状態や安否等がわかるようになっており、それを知らせする取組を始めている。ほかにも様々なことをデジタルの力を使って行うのが、能美スマートインクルーシブシティ構想であり、そのうちの柱の一つがデジタル公民館である。和佐谷町の皆さんが公民館を使って、してみたいこと等あれば、協力して取り組みたいと思うので、おっしゃっていただきたい。

・せっかくきれいな公民館ができたので、ぜひいろいろと活用してもらい、ずっと和佐谷に住みたいと思ってもらえるように、また、一緒に住まないかとお声がけしてもらえるように発展することを願って、能ん美りカフェトークの説明とさせていただく。

#### ○意見交換

【参加者】この辺も空き家がすごく多くなっているが、能美市での空き家の利活用状況はどうか。

【市長】今、市内に空き家が約750件あるが、そのうち空き家バンクに登録されているのは10件ぐらいである。何らかの理由で、別のことで空き家を活用していきたいと思っている持ち主が多いという状況である。

【参加者】何とか利用できれば、被災者の人にも利用してもらえる。

【市長】そう思うが、現状そのような状況である。

【参加者】 公民館の使い方が今までとは変わるが、和佐谷町のような小さい町の公民館はいつも建物の鍵が開いているわけではない。今、限られた人が鍵を持っているが、将来的には、何か違う展開があるのか。

【市長】 市内３か所でオートロックを試験的に導入している。いろいろな課題を検証して、多くの皆さんに使ってもらえると判断できれば、オートロックをつけるための補助メニューを考えていきたい。

○閉会